



評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取り組み状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程 学習指導	自ら問いをもち考えを深め、次の学びにつなげる児童の育成Ver2.0	児童が自ら問いをもち考えを深めることができる環境をつくり、児童が学びを実感することができるような授業を行う。	学力づくり部	本校では、昨年度から自ら問いをもち学習に取り組んできた。1年間を通して、問いをもてるようになったり、問いの質が高まってきた。しかし、考えを深めたり、教科をこえて考えたり、社会と関連させて考えることに課題が見られた。そこで、今年度は、児童が自らの学びを実感し、生かしていけるようにしていきたい。	[満足度指標] 授業で学んだことを次の学びに生かすことができる。	授業で学んだことを次の学びに生かすことができる。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケートを実施	A	A	ふり返りに重点をおき取り組んだことで、児童が学んだことや自分の成長について実感している姿が見られるようになってきた。しかし、社会生活と関連させて学習に取り組むということには、課題が見られる。今後は、学びが社会とどのように関連し、つながっていくのかを、児童が見いだせるような授業実践を行ってみたい。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	主体的に他者と協働し、課題を探究していく児童の育成に努める。	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり に努め、意図的に児童が他者と関わる環境を設定する。	心づくり部	昨年度は学校研究と連携し、児童が授業で自己決定・選択する場を多く持ったり、児童が必要感を持つ授業づくりを積極的に進め、課題解決に向けて主体的に他者と協働し、探究する児童を育成していきたい。	[満足度指標] 課題解決のために、他者と協働しながら探究していき、回答した児童の割合が	課題を解決するために、他者と協働しながら探究していき、回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	A	A	児童が自ら問いを持ち、必要感を持てるように授業づくりを行ってきた。自ら学習課題を設定することで、主体的に探究する力の向上が見られた。授業の中での、何のために協働的に学び合うのか目的を精査し、授業を通じて4つの視点を生かした生徒指導の充実を図ることで学びに向かう集団作りを行っていく。
	安全・安心な学校・学級づくりを推進し、児童が安心して学校生活を送れるよう努める。	毎月の児童理解の会を通して、児童の小さな変化について、全職員で情報を共有し指導する。また学校生活アンケート、相談活動などを通して、いじめの未然防止と早期発見・対応に組織で努める。さらに年度初めに分校の子の生活や筆記具の共通理解を図り、安心して居心地の良い環境作りを努める。		昨年度、学校生活アンケートや相談活動を通して、いじめの早期発見・対応に努めてきた。本年度も計画的にアンケートや相談活動を実施し、職員間で児童の小さな変化や気になる児童のこについて情報を共有していきたい。	[満足度指標] 安心して学校生活を送ることができている。	安心して学校生活を送ることができた。回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	A	A	計画的に学校生活アンケートや相談活動を実施することで、職員全体で児童理解に努めることができた。また普段から些細なことでも職員間で情報を共有することができた。今後も組織で児童を見守る環境作りを努め、報告・連絡・相談を徹底していきたい。
③キャリア教育 進路指導	キャリア教育の推進に努める。	学期ごとに自分で目標を設定し、学期末に自己評価する。また、学期途中には、目標にどれだけ近づいているかを振り返る機会を持つ。	心づくり部	昨年度はキャリアパスポートを活用して、学期初めに目標を設定し、学期末に自分自身を見つめ直す振り返りをしてきた。しかし、学期の途中、なりたい自分やそのためにすることの目標意識が低くなっている様子が見られた。学期途中にも、なりたい自分にどれだけ近づけたかを振り返る機会を設けて、主体的に目標達成に向かう力を育てていく必要がある。	[満足度指標] 学期ごとに目標を決め、達成に向けてすすんで取り組んでいる。	自分で決めた目標の達成に向けてすすんで取り組むことができた。回答した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	A	A	学期の途中で自分の成長を振り返ったり、目標を再設定することで、なりたい自分と向き合い主体的に目標達成に向かう姿が見られた。来年度も同様に、キャリアパスポートを活用して、自分の成長を実感できるようにしたい。
④保健管理	望ましい生活リズムを身に付け、規則正しい生活習慣の向上を目指す。	ネットモラルやメディアコントロールについて指導の機会を設け、家庭と連携しながら規則正しい生活習慣の定着を図る。学校保健委員会の議題としても取り上げる。	体づくり部	実態として、早寝・早起きの習慣が身につけていない児童が増えている。その大きな要因として、メディア使用による寝不足が挙げられると思われる。行動変容につながるような取り組みが必要となる。	[成果指標] メディアコントロールを意識して、早寝・早起きを実践している。	実践している。回答した児童の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	C	D	児童(79.8%)と保護者(90.5%)の意識の差があるため、結果をおたより等で共有するだけでなく、ホッとネット大作戦や学校保健委員会を通じて親子でルールを話し合う場を継続して設ける。さらに、学校全体で児童が定期的に生活チェックを行う機会を作り、親子で主体的に生活リズムを改善しようとする意識を育てていく。
	体力づくりや体育の授業を通して、運動能力の向上を図る。	体育の学習を通して、運動能力の向上を高める。(リズムアップトレーニング・スポチャレいしかわの取り組み)		継続的に体力作りや学年の取り組みが行われているが、特に力強さや柔軟性に課題がある。令和6年度のスポーツテストでは、上体起こしや長座体前屈などの学年でも県平均を下回っていた。ICT機器の活用、スポチャレいしかわへの積極的参加を通して、体力の向上を目指す必要がある。	[成果指標] 体力づくりや体育の授業を通して、体力を向上させることができる。	スポチャレ8の字とびの記録が、目標を達成した学年の割合が A:6学年以上 B:5学年以上 C:4学年以上 D:4学年未満	各学期に1回以上測定実施	D	A	2学期から取り入れた異学年での8の字跳びの取組において、他学年同士での跳び方の教え合いの場を設けることで、全学年が目標を達成することができた。今後も継続して取り組み、記録向上だけでなく、体力づくりの意識も高めていく。
⑤安全指導	児童・教職員の防災への意識を高めると共に、「自分の命は自分で守る」ために行動できることを目指す。	学校安全計画に基づき、各教科や特別活動で「自分の命は自分で守る」ための行動について考えさせ、めあてを持って訓練に取り組む。	教頭各担当	地震や火災等の避難訓練では、適切に行動することができる児童は多い。しかし、日頃から身近にある危険や防災について考え、行動できる児童は少ない。自分の身を守るためには日頃から安全に対する意識を高めておく必要がある。	[成果指標] 学校生活全般において、自分で考えて命を守る行動を取ることができる。	学校生活(授業を含む)において、「自分の命は自分で守る」ために考えて行動できた児童の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	7月と12月に児童アンケート実施	A	B	避難訓練の振り返りアンケートでは、97.4%の児童が落ち着いて放送を聞き、自分の命は自分で守るために考えて行動できたと回答した。(できた:84.1% ままあまできた:13.3%)休み時間で自分で考えて避難する場面でも自分で考えて行動できる児童が多い。日頃からあらゆる場面を想定して安全に関する意識を高めていくよう、継続的に指導していく。
⑥特別支援教育	児童の特性に寄り添った支援の組織的支援体制の確立に努める。	支援を必要とする児童に対して、校内支援委員会や児童の特性に寄り添った支援の在り方を検討し、SCや専門相談員等とも連携し組織的に支援に取り組む。	心づくり部	特別な支援を要する児童を4月下旬の校内支援委員会で担任からの聞き取りをもとに把握し、専門相談など外部の機関を活用しながら、その児童の特性に寄り添った支援を検討し組織的に支援していく必要がある。	[努力指標] 支援を必要とする児童の支援について、児童の特性に寄り添い、組織的に支援する。	支援が必要な児童に対し、組織的に支援できた。回答した教職員の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	A	A	学級担任の困り感をもとに、校内支援委員会を必要に応じて開催できた。そして、錦城特別支援の専門相談やこども育成相談センターを活用し、個に応じたよりよい支援について考える機会をもつことができた。今後も児童の特性に合った支援を組織的に検討できるようにしていく。
⑦組織運営 業務改善	部会の連携を図り、効果的・効率的な業務改善を促進する。	学校運営ビジョンの具現化に向けて、児童の主体性を考慮した提案を分掌部会や主任会、運営委員会、職員会議で行い、組織的にポトムアップする。	教務教頭	職員は、組織的にポトムアップすることで、学校運営に参画し活動している意識が高まってきた。今年度は、教職員の約半数が入れ替わり、若手も多い。新しい視点やアイデアを取り入れながら、児童の意思や主体的な学校づくりに向け、組織的に提案・実行していく教職員集団を再構築する必要がある。	[成果指標] 取組のねらいを意識した、児童の主体性を引き出す言葉かけや提案を行う。	児童の主体性を意識した言葉かけや提案を行った。回答した教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	A	A	教職員の割合は91.7%であった。児童のSoTNアンケート「主体的に学習に取り組む態度」の1、2学期を比較すると、児童は、新たな学びに対して自分で目標や計画を立てて進められるようになってきた。一方、課題に挑戦したり失敗したりすることを楽しむことや、自分なりに最後までやり続けることが低下している。教師が、適切に支援したり、学びの過程を価値付けたりしていく。
⑧研修	様々な研修に積極的に取り組み、教員としてのスキルアップを図る。	校内研修会や研究授業、授業交流、外部講師の活用などを積極的に行い、授業改善に取り組むと共に、外部研修や他校視察で学んだことについて同僚に伝えたり、伝達講習をしたりして、スキルアップをはかる。	学力づくり部	校内の研究授業や様々な研修会を実施し、教職員は積極的に取り組み、授業や学級経営などに活かしてきた。今年度は、若手も多く、これまで以上に、校内や外部研修、授業参観などを通して学んだことを指導に活かすと共に、若手に伝えていく必要がある。	[成果指標] 本校や自身の研修で学んだことを指導に活かしている。	本校や自身の研修で学んだことや、外部や同僚から得られた学びを指導に活かしている。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に教職員アンケート実施	A	A	問いをもち主体的に学習を進めねらいを達成する授業改善、日々の声掛けやクラス会議等での安全安心な学級づくり、服務規律など教職業務など、教職員は、研修で学んだことを実践している。今後も自ら学び続け、チームとして学校の教育力を高めていく。
⑨保護者 地域との連携	教育活動の発信に努め、保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりをめざす。	コドモン、ホームページ等を活用して、学校だけでなく児童の様子を知らせる。また、探Q学習を通して、ふるさと教育の充実を図る。	教頭各担当	ホームページや便り等で教育活動の発信に努めているが、学校と地域の連携や結びつきという所までには至っていない。児童が地域の良さを知り、地域の一人としての意識を高めるためにも、探Q学習を通して、保護者や地域と連携した活動の充実を図っていく必要がある。	[満足度指標] 学校は、保護者や地域との連携を密にし、地域に根ざした児童の育成を進めている。	地域に根ざした児童の育成を進めていると感じている保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	7月と12月に保護者にアンケート実施	B	B	「地域に根ざした児童の育成を進めている」と回答した保護者は89.5%であった。7月のアンケートより肯定的な回答をした保護者が増えた。2学期はCSを活用し、地域人材と連携した授業等が充実していた。HPのみならず新聞やケーブルテレビなどのメディアを利用し、児童の様子の発信に努めていく。
⑩教育環境 整備	児童が主体的に学習に取り組むために学びの場を工夫し、校内環境を整備する。	計画的に校内内外の整備に努め、学習しやすい働きやすい環境づくりに努める。整理整頓を心がけ、校内環境を整える。	総務各担当	学校運営協議会での老朽化による安全面や衛生面に関する指摘や能登半島地震の影響から、まだ見えない箇所の危険等も考えられるため、今後より注意深く環境の把握に努める必要がある。また、児童が主体的に学習に取り組めるように学習環境の整備に取り組んでいく。	[努力指標] 教育環境の整備に積極的に取り組んでいる。	整理整頓を心がけ、教育環境の整備に積極的に取り組んでいる職員の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	7、12月に教職員にアンケート実施	A	C	「教室や職員室等、整理整頓に心がけ、環境整備に積極的に取り組んでいる」と回答した教職員の割合が83.3%であった。学校予算の範囲内で備品整備や環境整備を行ってきた。一方で、不要なもの処分や整理整頓が徹底できなかったところもあった。児童が主体的に学習に取り組んだり、教職員が業務を効率に行ったりするために、引き続き環境整備をしていく。

学校関係者評価

・今年度達成できたことが多くあるが、来年度以降の計画を立てる際に今年度できなかったことができないようにお願いしたい。継続して取り組むことと新たにに取り組むことを吟味するとよい。

・メディアコントロールについては、本校だけでなく社会全体の課題であるが、本校としての方針をもって取り組んでほしい。また、育友会との連携を図って生活リズムの改善に取り組むとよい。

・どの項目もC,Dと回答した児童に事後どのようにアプローチするかが大切である。ぜひ、その数%の児童に寄り添ってほしい。

・達成度判断基準の見直しをする。Aが100%という項目があるが、100%ではないから駄目という項目ではないと思う。